

災害事例
と
その対策
No.14

フォークリフトに長尺物の鋼管を 乗せて運搬中、鋼管が落下して 地上の作業補助者の足に激突する

1. 事業の種類 貨物運送事業
2. 労働者数 男性58名 女性3名
3. 被災者 トラック運転者 男性25歳 運転経験5年
4. 傷病名 右足中足骨骨折
5. 災害発生状況

(1) 災害発生当日の作業概要

トラックによって外部から会社の構内に運搬されて来た建築用の丸い鋼管（口径20cm・長さ5m・重量300kg）15本を、会社の倉庫内に運搬して、倉庫で一時保管する作業であった。

(2) 本来の作業方法

当日予定されていた作業方法は、トラックが倉庫内に入って、倉庫内に設置されている天井走行クレーンを用いて、トラックの荷台から鋼管を卸す予定であった。

(3) トラックの故障

鋼管を積載したトラックが倉庫の手前50mほどの箇所で、エンジンに異常が発生し、トラックは走行が不可能となった。

(4) 予定外の作業方法

トラックを修理するには半日ほどを要することがわかったので、作業を急いだ作業の責任者であるA課長は、フォークリフトのB運転者とトラックのC運転者に命じて、トラックの荷台から鋼管を1本ずつ、最大荷重5tのカウンタバランスフォークリフトのフォーク上に乗せて、倉庫内に運搬することとした。

(5) 作業補助者の被災

鋼管は丸く転がるので、トラックの荷台にAとCが登り、鋼管の両方の端を2人で保持して鋼管を転がしてフォークの上に乗せた。Bはフォークの上に1本の鋼管を乗せて倉庫の方向に走行しようとしたが、鋼管がフォークに固定されていなかったため、鋼管がフォークリフトの走行によって動き、フォーク上から落ちるおそれが生じた。このため、AはCに地上に降りてフォークの上に置いた鋼管を手で保持して鋼管が地上に落ちないようにして、フォークリフトとともに倉庫に歩くように指示した。Bが運転するフォークリフトとともにCが鋼管を両手で保持しながら歩き始めて7、8m進行した時に、地面の凹凸によってフォークリフトが揺れ、鋼管がフォークの上から地上に落下し、Cの右足の甲の上に激突し、中足骨を骨折した。

6. 災害発生原因

災害が発生した原因は、不安定な荷姿の鋼管をフォークリフトで運搬し、かつ、その鋼管を補助作業者に保持させたことである。

7. 再発防止対策

本来的にフォークリフトによる運搬になじまない不安定な荷姿の長尺物は、フォークリフトで運搬しないこと。